

【R 1 8】 ノベル

C F N M

『男子の身体検査で、
下半身に悪戯する悪いナース』
〔ナースと男子生徒の会話形式版〕

作：七条右京

「」は、台詞

『』は、心の声

私の務めるクリニックでは、セレブ御用達のとある名門校の身体検査を行っています。

この学校の身体検査は、生徒同志のプライバシーの理由から校内で集団で行わず、都合のいい時に生徒一人一人がこのクリニックを訪れて、完全に個別で行う事になっています。

男子の場合は、全ての検査をパンツ一枚の裸で、一人の生徒に一人のナースが完全につきっきりで行います。

内科検診以外は、男子生徒とナースの完全に二人きりで、誰からも見られる事はありません。私はこれを利用して、タイプの男のコには、追加の特別検査と称して、パンツを脱いで全裸になって貰い、下半身に性的な悪戯をしてしまう悪いナースなんです。

ナース：

「〇〇〇〇さん、今日は〇〇学園の身体検査で間違いないわよね」

「1年〇組の〇〇〇〇君ね」

男子：

「はい、大丈夫です」

「よろしくお願いします」

ナースの心の声：

『可愛いコね』

『ショタコンの私にはたまないわ』

『このコ、タイプだわ』

『たっぷり楽しませて貰うわよ』

ナース：

「今日は、私が終わりまで担当するわね」

「君は今年の入学だから、身体検査は始めてよね？」

「検査は、完全に個別で行うのよ」

「他の人に見られる事はないので、安心してね」

「それじゃ身体測定から行うので、その更衣室でパンツ1枚だけの裸になって貰えるかな」

男子：

「えっ、パンツだけになるんですか？」

ナース：

「学校からの指示で、そうなってるのよ」

「ちょっと恥ずかしいかもしれないけど」

「私は仕事として、見るだけだから」

「なんとも思わないからね」

男子：

「分かりました」

男子、更衣室でパンツだけの裸になって出て来る。

男子：

「脱ぎました、お願いします」

「でも、ちょっと恥ずかしいです」

「こんな綺麗な女の人の前で・・・」

ナース：

「やだ、綺麗だなんて、ありがとう」

「大丈夫よ、恥ずかしい事はないのよ」

「さっきも言ったけど、私は仕事として見てるだけだからね」

男子：

「そうなんですよね」

「よろしくお願いします」

ナースの心の声：

『私の前で、恥ずかしいだなんて』

『なんて、可愛いのかしら』

『ブリーフの前、結構もっこりしてるわね』

『どんなおちんちんしてるのかしら』

『楽しみだわ』

ナース：

「それじゃ身長から測って行くわね」

「ここに乗って」

「背中をここに付けて、気を付けの姿勢よ」

「はい、〇〇〇センチね」

「次は体重よ」

「この体重計に乗って」

「動かないでね」

「はい、〇〇キロよ」

「次は胸囲を測るわね」

「メジャーを後ろから回すから、ちょっと近寄るわよ」

「あっ、ごめんね」

「ちょっと手が乳首に当たっちゃったわね」

「はい、〇〇センチ」

「次は、モアレ撮影と言って、背骨の状態を見る写真を撮影するの」

「こっちの方をお願いね」

「はい、ここに後ろ向きに立って」

「それでね」

「撮影は、半ケツ状態にしないといけないのよ」

「だから、パンツをちょっと下げるわね」

「あっ、前は見えない様にするから大丈夫よ」

「気を付けの姿勢でね」

「じゃあ、ちょっと下げるわよ」

「そのままの姿勢でね」

「じゃあ、撮影するわね」

「はい、終わり」

「パンツを上げてもいいわよ」

「じゃあ、こっちに来て」